

**令和5年度  
高岡商工会議所 経営発達支援計画評価委員会 報告書**

- 日 時：令和5年9月12日（火）午後2時～3時30分
- 場 所：高岡商工ビル5階502号室
- 出席者：委員 長 中村 正治 氏（高岡商工会議所 副会頭）
  - 副委員長 森口 毅彦 氏（国立大学法人富山大学 経済学部長）
  - 委 員 久崎 みのり氏（富山県商工労働部 地域産業支援課長）
  - 委 員 今方 順哉 氏（高岡市産業振興部 産業企画課長）
  - 委 員 小林 正良 氏（株式会社日本政策金融公庫高岡支店 支店長）
  - 委 員 竹澤 敏光 氏（公益財団法人富山県新世紀産業機構 事務局長）
    - ※代理 麻生 成俊 氏（〃 中小企業支援センター部長）
  - 委 員 丸亀 徹 氏（一般社団法人富山県中小企業診断協会 会長）
  - 委 員 津嶋 春秋 氏（高岡商工会議所 企業経営改革常任委員会 委員長）
  - 委 員 西田 隆文 氏（高岡商工会議所 専務理事）
  - オブザーバー 長谷川昌志 氏（経済産業省 中部経済産業局  
電力・ガス事業北陸支局 産業振興室長）
  - オブザーバー 田中 幸也 氏（独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部  
地域連携支援部長）

- 議 題：①令和4年度 経営発達支援計画事業評価書について
- ②令和5年度 伴走型小規模事業者支援推進事業について

●意 見

- ・昨年度後半からはコロナの影響も抜け始め、成長が期待できる時期だったと思われる。
- ・経営状況の分析や事業計画策定における対象者の属性を知りたい。  
（事務局）対象が小規模事業者であり、代表者や専従者が多い。
- ・鍵になるのは代表者。代表者が自社の分析、策定、振り返りを行い、社員への提示といったリーダーシップを担うことが重要な役割である。
- ・次の世代を育てる人材育成も事業発展には重要である。
- ・K P Iは目的（売上・利益）達成のための指標であり、達成することで上位目標も達成できる。K P Iと目的の関係性について齟齬が生じた際は、検証を深めることが重要ではないか。
- ・事業計画策定後の実施支援に関する「売上増加事業者」「利益率増加事業者」達成率未達について。厳しい経営環境下ではあるが、補助金が頻出するこの機会に生産性向上への取り組みやIT化推進に大いに活用いただき発展の契機としてほしい。
- ・「売上増加事業者」「利益率増加事業者」達成率から見て、評価を×としているが、昨年度は社会情勢の変化もあり、利益確保が難しい経営環境も理解できるので△でもいいのではないか。
- ・「ゼロゼロ融資」の返済が始まっている中で、企業側の課題も出てきているのではないか。市としても課題解決に向けた施策の予算立てを検討しており、今後相談していきたい。

- ・市でもイベントを実施しているので需要動向調査に利用いただきたいとともに、海外販路開拓においてもクラフトヴァレーの取組みも進めており、事業者への1メニューとして情報提供していただきたい。
- ・令和4年度は旅行支援もあり、景気がこれ以上悪くならない雰囲気があった。
- ・販路開拓における商談会の出展者数と成約件数は、成約件数が目標値ではないのか。成約件数は実際0件か、把握しきれないから0件としているのか。  
(事務局) 商談件数は把握できても成約件数まで追いきれていないので0としている。
- ・商談会の制約件数について、どこまで追いかけたらいいのか難しい所。追いかけて、フォローしていかないと小規模事業者からの脱却まで繋がっていかないのではないか。伴走型支援をどこまで行うかも今後の課題である。
- ・参加事業者の商談会出展後、半年～1年はフォローアップが必要と考える。
- ・越境ECサイトを活用したテストマーケティングは良い試み。小規模事業者にとってIT活用は敷居が高く感じられるが、成果事例を増やしていくことで挑戦しやすいと感じてもらえるのではないか。
- ・富山県中小企業診断協会では経営改善計画策定がメインであるが、融資返済の据置期間を延長する企業も増えてきている。赤字補填まではいかず、今後協会としてもどう対応するかが課題。
- ・最低賃金の引き上げによって、小規模事業者の費用負担が重くなり一層厳しい時期に入ってくる。
- ・創業は増えているものの、高岡に限ってはイベントの際は賑わうが、日曜日の駅周辺は人の少なさが目立つ。今後も継続した賑わい創出事業を期待する。
- ・IT事業については生成AIと今後どう向き合っていくかが課題。業務効率化に有効なツールとして小規模事業者においても活用できるのではないか。今後、支援施策・セミナーについて企画されてはどうか。
- ・商談会の効果測定が難しい。業種によっては測定期間にバラツキがあり、全て完璧には追えないと思われる。
- ・事業評価書は、ロシアのウクライナ侵攻、台湾有事等経営環境の変化が盛り込まれていない内容・評価基準であり、ビジネスを続ける上で継続困難になるような時代を想定してのものではなく、過去のプログラムを実施運営しているように感じる。  
(事務局) コロナ前の環境下での目標と支援体制が主で、全体的な事業内容は微調整をせず実施しているが、個社案件においては対応している。
- ・コロナ禍により支援件数も多く、高い評価となっているが、KPI達成の先にある上位目標との関連性を注視していくべきと感じる。
- ・創業・事業承継について相談件数が増えてきているが、もう一步踏み込んだ支援を期待する。年齢が高い代表者に対し10年後をどう描いているかという問いかけをするなど踏み込んだ支援が重要。支援者には積極的に外に出て支援にあたってもらいたい。待つと聞く話と外へ出て問いかけてくる話では聞ける内容の質が異なる。
- ・高岡スタートアップ塾は先人の志を学ぶ機会。スタートアップ支援施設「TASU」を訪れる起業意思のある人を取り込もうとする取組みもしている。連携し、創業者の増加に繋げていきたい。

- ・小規模事業者にとってDXは関係ないという雰囲気がある。高岡商工会議所では会報等で「身の丈DX」として成功事例を紹介している。事例を積み上げて、IT活用の敷居を低くする活動を地道に続けていきたい。
- ・高岡商工会議所は海外販路開拓として今年度、台湾視察や台湾企業とのWEB商談会の実施を企画している。台湾を足がかりにASEANにも販路を広げていきたい。
- ・波及効果が高い観光産業の育成も将来的な売上向上に繋がるのではないか。令和6年までが5か年計画であるが、支援に対する変わり目が来ている。日本商工会議所の支援スタンスが「自己変革に挑戦する小規模事業者を応援」という視点に変わった。次年度、次の計画策定に向け、議論を深めたい。
- ・コロナ禍を経て国や県の施策も変わってきている。これから人口減少、労働力不足が慢性的に起こってくる中で小規模事業者に対し、支援機関がどのような支援をしていくかが課題。
- ・IT導入補助金の活用等、引き続き小規模事業者に寄り添った支援を実施いただきたい。
- ・小規模支援において、ベテラン指導員の経験豊かな知識スキルを若手にいかに引き継いでいくかが今後の課題。
- ・来年度も補助金予算が追加されている状態。この機会に補助金を上手く活用し、事業計画策定支援を継続いただきたい。
- ・経済動向の反映についても情報を元に支援にあたっていると思われる。引き続き情報収集にあたり現場支援につなげていただければと思う。

以上